

枚方市立図書館

おすすめの子どもの本



■2013年1月から12月に出版された中から、特におすすめする本のリストです。子どもの本に関わる大人の方へお伝えするために作成しました。

■本の情報は、書名、著者名、出版社名、図書館での分類記号、対象年齢の順になっています。

2014年4月発行 発行者：枚方市立図書館 児童サービス委員会 電話 050-7105-8121 FAX 072-851-0962

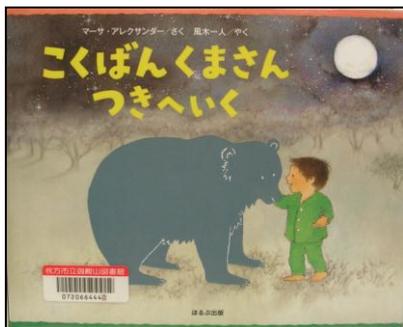


えほん

こくばんくまさんつきへいく

マーサ・アレクサンダー／作 ほるぷ出版
風木 一人／訳 **エホン**【幼児～小学校低学年】

パパに月の本を読んでもらったアンソニーは、月に行きたいと思いますが、パパは宇宙船の作り方を知らないと言います。すると、夜中に、黒板に住んでいる「こくばんくまさん」が出てきて、宇宙船を作ってくれました。柔らかく美しい水彩の絵が印象的です。



りきしのほし

加藤 休ミ／著 イースト・プレス
エホン 【幼児～小学校低学年】

力士のかちかちやまは、毎日厳しい稽古をしますが、なかなか強くなれません。こんな調子が続くと、やめたくなることもあります。しかし強い力士になるために一生懸命、稽古に励みます。力士の稽古や相撲の取り組みの場面などが力強く描かれています。



わたしのすてきなたびする目

ジェニー・スー・コステキニショー / 作
美馬 しょうこ / 訳 偕成社

工ホソ 【幼児～小学校低学年】

ジェニー・スーは、左目が斜視で弱視の女の子。友達に「イグアナの目」とからかわれてもめげません。彼女は自分の左目を「たびする目」と呼び、目が行く所に自分がついて行くのだと言います。右目は案内役で左目は芸術家だとも言います。人と違うことを肯定的にとらえ描いています。



ぶたラッパ

下田 昌克 / 作・絵 谷川 俊太郎 / らっぱ
そうえん社 **工ホソ** 【幼児～小学校低学年】

ラッパをふく子どもたち。ラッパの音に合わせておどるブタたち。色彩豊かで動きのある絵とそれに合わせたラッパの響き。ブタのおどっている様子や子どもたちのラッパの音が、今にも本から飛び出しそうな躍動感のある楽しい絵が魅力的です。



ちかちかぴかり

ジョアン・B. グレアム / ことば 福音館書店
ナンシー・デイビス / 絵 ふじた ちえ / 訳
工ホソ 【小学校中学年～中学生以上】

星やろうそく、電球など「光源」の形を、詩的な言葉で表現し、その文字をデザイン的に組み合わせ、全体を絵のように表現しています。また、絵を見るだけでなく、詩的な言葉を深く味わうこともできます。



それならいいえありますよ

澤野 秋文 / 作 講談社

工ホソ 【幼児～小学校低学年】

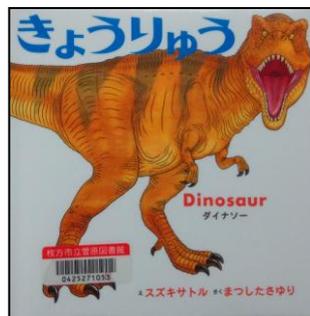
猫地蔵に自分が住みたい家の願いを書いて張ると、ちゃまるという猫がぴったりの家を探してくれます。散らかし放題のぎんたは、「かたづいたきれいないえ」と願いを書きますが、汚い家を希望したねずみ親方に自分の家を紹介されてしまいます。昔話のような展開で描かれ、懐かしい雰囲気を感じられます。



きょうりゅう

スズキ サトル / 絵 まつした さゆり / 作
えほんの杜 **工ホソ** 【幼児～小学校低学年】

恐竜の骨格が出てきて、「だーれだ」と問いかけます。ページをめくるとその恐竜の名前と生きていた姿が紹介されます。化石でしか存在を知ることができない恐竜が、大昔には地球上で生活していたことを教えてくれます。



シバ犬のチャイ

あおき ひろえ / 文 長谷川 義史 / 絵
BL出版 (神戸) **工ホソ** 【幼児～小学校低学年】

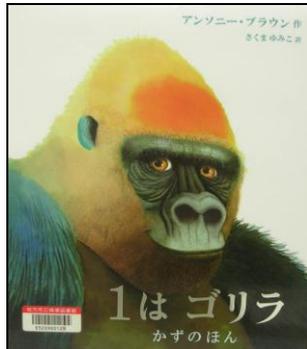
シバ犬のチャイの視点で描かれています。周りの人間と対等だと思っているチャイは、生意気ながら愛らしく描かれており、また、そのチャイを飼っている一家の日常までも描きだしています。味わいのある絵は見ているだけで飽きず、何度も繰り返し楽しめます。



1はゴリラ—かずのほん

アンソニー・ブラウン／作 さくま ゆみこ／訳
岩波書店 **工ホン** 【幼児～小学校低学年】

1で1頭のゴリラ、2は親子のオランウータンと霊長類の種類が変わって数が増えていきます。見開きいっぱい、表情豊かなサル達がこちらを見つめています。さて最後に出てくる霊長類はなんでしょうか？魅力ある絵で、数についての興味がわかります。



あー・あー

三浦 太郎／作・絵 童心社 **工ホンキイロ** 【幼児】

「あー・あー」とあかちゃんが言います。何を言いたいのでしょうか？「めー・めー」鳴くのは、やぎさん。「もー・もー」鳴くのは、うしさん。「がー・がー」鳴くのは、あひるさん。熱いスープは「ふー・ふー」しましょう。言葉のリズムを楽しんでみましょう。



もちっこやいて

—わらべうたの「もちっこやいて」より
やぎゅう げんいちろう／作 福音館書店
工ホン 【幼児～小学校低学年】

わらべ歌「もちっこやいて」に着想のヒントを得て創作された、おはなし絵本です。北風や鬼の子どもたちが、ばっちゃんの家を集まって、歌いながら楽しくおもちゃを焼きました。オレンジと黄色が強調された絵が、温かく賑やかな様子をよく表しています。



ジャーニー—女の子とまほうのマーカ

アーロン・ベッカー／作 講談社 **工ホン**
【幼児～中学生以上】

魔法のマーカを手にした女の子は、壁に描いた扉を開けて不思議の世界に旅立ちます。枝々に灯籠を吊るした美しい森から、ふたたびマーカで描いた小舟に乗って、いつのまにか中世のような城砦の町へ…。この絵本に言葉はいっさいありません。幻想的な絵を追いつつながら、あなただけの物語の言葉を想像してください。



ネコがすきな船長のおはなし

インガ・ムーア／作・絵 たが きょうこ／訳
徳間書店 **工ホン** 【幼児～小学校低学年】

あるところに、ネコ船長とよばれる船長がいました。ネコ船長はネコが大好き。彼の船の中はいつもネコでいっぱいでした。あるとき、船長は航海の途中で嵐にあい、小さな島に流れ着きます。そこはネコが一匹もない島でした。ネコ船長とネコと島の人たちとの交流をあたたかく描いています。



ふかいあな

あすなる書房 **工ホン**

キャンデス・フレミング／文 エリック・ローマン／絵
なかがわ ちひろ／訳 【幼児～小学校低学年】

カエルがふかいあなに落っこちて、助けようとしたネズミも落っこちて、それを助けようとしたスローロリスも落っこちて、さらにはマレーグマも落っこちて、みんな次々と落ちていきます。するとそこヘトラが舌なめずりをしながらやってきました。「なんてこったい！」のパターンの繰り返しが笑いを誘います。最後のどんでん返しにもご注目。



日本のものがたり

じゃんけんのすきな女の子

松岡 享子／作 大社 玲子／絵

学研教育出版 **ヤサシイマツ**【小学校低学年】

とてもじゃんけんのすきな女の子がいて、なんでもじゃんけんで決めるのでみんな困ってしまいます。ある日ねこがあらわれ、誰のお父さんとお母さんなのかを、じゃんけんで決めると言います。そのじゃんけんで女の子は負け、大変なことになります。姉妹本「なぞなぞのすきな女の子」もあります。



とっておきの標語

村上 しいこ／作 市居 みか／絵

PHP研究所 **ヤサシイムラ**【小学校低学年】

クラスで標語を考えることになったつよしは、けんかしているゆりともことが「仲直りできる標語」を考えることにしました。そこで、家で「仲直りできる標語」について聞いてみましたが、どうやら母ちゃんと父ちゃんもけんか中ようです。教訓的になりがちな標語ですが、お互いの心を和らげる働きもあるのだと教えてくれます。



がむしゃら落語

赤羽 じゅんこ／作 きむら よしお／画

福音館書店 **F-アカ**【小学校高学年】

5年生の雄馬は、意地悪三人組にはめられて、特技発表会で落語をすることになりました。近所の若手落語家に弟子入りますが、本番に間に合いそうもありません。師匠と仲たがいでしまった雄馬は自分なりのオチを考えます。落語の豆知識も得られて楽しめます。

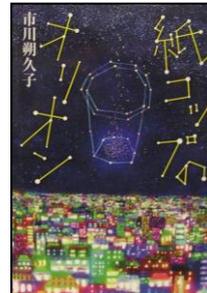


紙コップのオリオン

市川 朔久子／著 講談社

F-イチ【小学校高学年～中学生以上】

実母と継父、妹と暮らす^{ろんり}論里。母の突然の家出は、親子喧嘩でつい実父のことを言ったせいなのかと悩みます。一方母のHPを見てキャンドルナイトを思いつき、中学校で創立記念行事の事実上の実行委員となります。平凡な中学2年生が、人と人との繋がりを理解していく姿を描きます。

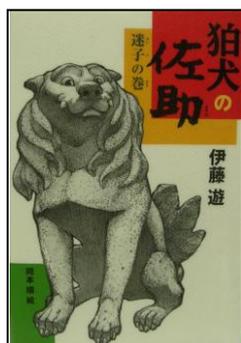


狛犬の佐助 迷子の巻

伊藤 遊／作 岡本 順／絵

ポプラ社 **F-イト**【小学校高学年～中学生以上】

明野神社の狛犬に魂を宿した石工の佐助は、たびたび神社を訪れる見習い大工の耕平のことが気かりでなりません。耕平は愛犬がどこかに行ってしまう、すっかり落胆しているのです。不思議な狛犬と人々がおりなす、心のこもったファンタジーです。



夜はライオン

長蘭 安浩／著 偕成社

F-ナカ【小学校高学年～中学生以上】

優等生で野球チームのキャプテン、小学5年生のマサは、いまだにおねしょが治らないのが悩みの種。6年生の修学旅行を無事過ごすため、マサはあらゆる努力をします。小学生にとっては大きな悩み事に立ち向かう姿をまじめに、またユーモアたっぷりに描く少年の成長物語です。



外国のものごた

やさしい大おとこ

ルイス・スロボドキン／作・絵 こみや ゆう／訳
徳間書店 **ヤサシイースロ** 【小学校中学年】

山の上のお城に住む大おとこは、ふもとの村人達と友達になりたがっていました。ところが、悪い魔法使いが大おとこの命令だとうそをつき、村の食料を奪うので村人達は怖がって隠れてしまいます。そんなある日、大おとこは井戸に落ちた小さな女の子、グエンドリンを助けま



砂の上のイルカ

ローレン・セントジョン／著 さくま ゆみこ／訳
あすなる書房 **N-セ** 【小学校高学年～中学生以上】

祖母と南アフリカに住み、動物に対し力を持つ11歳の少女マーティーンは、学校の遠足でイワシの大群を追って海の生物が海遊する「サーディン・ラン」に出かけます。その時、クラスメイトと遭難してしましますが、イルカ達の救助で島にたどり着きます。海の環境破壊についても考えさせられます。



ローズの小さな図書館

キンバリー・ウィリス・ホルト／作 谷口 由美子／訳
徳間書店 **N-ホル** 【中学生以上】

1939年、14歳のローズは貧しい家族のために、年齢を偽って図書館バスのドライバーになりました。ローズの子、孫、曾孫と本との出会いの物語が、79歳のローズが叶えた夢へと繋がっていきます。



ねことテルと王女さま

クライド・ロバート・ブラ／作 長崎出版
レナード・ワイスガード／絵 **ヤサシイフラ**
あんどろ のりこ／訳【小学校中学年】

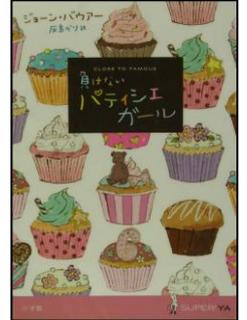
貧しいきこりの家から追い出され都へとやってきた子猫は、絵描きをめざす若者テルと出会い、安住の地を得ます。ところがある日、子猫は煙突掃除夫のケッチにつかまってしまいます。はたして子猫は無事にテルのもとへと戻れるのでしょうか。クラシカルな挿絵がどこか懐かしい、上質な雰囲気を感じます。



負けないパティシエガール

ジョーン・パウアー／著 灰島 かり／訳
小学館 **N-ハウ** 【小学校高学年～中学生以上】

12歳のフォスターの夢は、パティシエガールになることです。母親の元彼から逃れて母娘で新しい町へやってきました。彼女はこれまで字が読めないことで、辛い思いをしてきましたが、憧れのパティシエのお菓子の本が読みたいと、勇気をもってレッスンを受ける決意をします。夢に向い努力し、成長していく姿に好感がもてます。



ミサゴのくる谷

ジル・ルイス／作 さくま ゆみこ／訳 評論社
N-ルイ 【小学校高学年～中学生以上】

スコットランドの少年カラムが、保護鳥ミサゴの「渡り」をパソコンを駆使して見守ります。鳥の発信器は遠い砂漠ガンビアでついに途絶えたかに見えますが…。友情や家族の思い、出会いの奇跡が、少年の葛藤と共に一羽の鳥を追う中で描かれます。



知識の本

イモムシ

新開 孝／写真・文 ポプラ社

チシキエホン-4 【幼児～小学校低学年】

色も形もさまざまなイモムシが勢揃いしました。「どうやって生まれるの?」「何を食べて大きくなるの?」「どんなウンチをするの?」「敵が来たときはどうやって身を守るの?」など、あまり知られていないイモムシの生態について紹介した写真絵本です。



バナナのはなし

伊沢 尚子／文 及川 賢治／絵 福音館書店

チシキエホン-6 【幼児～小学校低学年】

バナナを冷蔵庫に置いて1週間。黒くなったのはなぜ?どんな花からどういう風に実になるのか、皮をむいたときのすじや断面の小さい黒い点は何なのかなど、イラストを使いバナナについてわかりやすく説明しています。



図書館のトリセツ

福本 友美子・江口 絵理／著 講談社

010 【小学校高学年～中学生以上】

まず、図書館の本は、どのように分けてあるか、どんな風に並べられているかが丁寧に説明してあります。その後、小学生の2人が街の図書館で調べ物をする様子を、3つの具体的な事例を使って紹介しています。市立図書館を使った調べ物の優れた「トリセツ(取り扱い説明書)」になっています。



本屋さんのすべてがわかる本

1: 調べよう! 世界の本屋さん

稲葉 茂勝／文 秋田 喜代美／監修

024 【小学校高学年～中学生以上】

様々な角度から、本屋さんについて知ることができるシリーズの第1巻。本屋さんのはじまりから、現代に至るまでの歴史や、世界各国の本屋さんの様子を写真とともに紹介しています。第2巻は「調べよう! 日本の本屋さん」です。

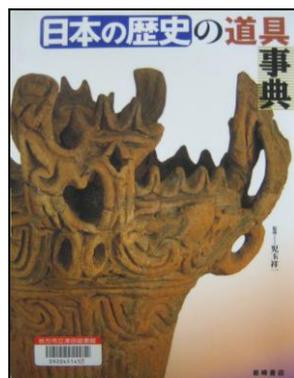


日本の歴史の道具事典

児玉 祥一／監修 岩崎書店

210 【小学校高学年～中学生以上】

人類最初の道具である打製石器から江戸時代の道具を、美しいカラー写真とともに紹介する大判の事典です。大小さまざまな道具から、その時代を生きていた人々の生活の様子を知ることができます。

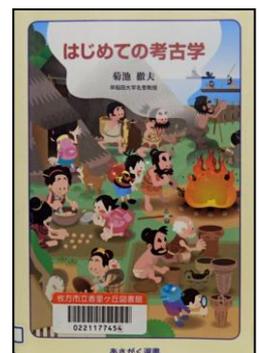


はじめての考古学

菊池 徹夫／著 朝日学生新聞社

210 【小学校高学年～中学生以上】

歴史を学ぶことは、物事を客観的、相対的に見る訓練になります。考古学は、人類の過去の歴史を明らかにする歴史学の一分野です。遺跡や遺物という「もの」から、歴史の事実を見出す研究方法と日本文化の移り変わりを解説しています。



池上彰と学ぶメディアのめ

NHK「メディアのめ」制作班／著 池上 彰／著
NHK出版 361 【小学校高学年～中学生以上】

テレビや新聞、インターネットなどで、様々な情報があふれる現代社会。なにげなく接する記事や見出し、写真などに込められたメッセージを読み解くヒントが満載です。真実を見抜く力を養うことの大切さがわかります。



江戸のお店屋さん

藤川 智子／作 小林 克／〔監修〕
ほるぷ出版 384 【小学校中学年～高学年】

江戸時代、人々はどのようにして日常用品を手に入っていたのでしょうか。この本では小間物屋や菓子屋、薬種屋など代表的な7つのお店の中の様子や取り扱っている品物、商品の作り方などを詳しく紹介しています。また、今では見かけなくなった行商人についての説明もあります。大きくてカラフルな絵がいっぱいで、タイムスリップしてお買い物を楽しめそうです。

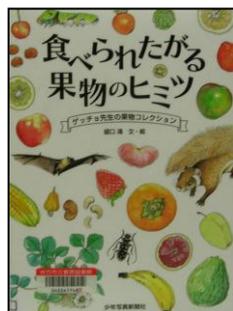


食べられたがる果物のヒミツ

ゲッチョ先生の果物コレクション

盛口 満／文・絵 少年写真新聞社
471 【小学校高学年～中学生以上】

果物は種子の詰まった実。動けない植物は、実ごと食べてもらってあちこちに種子をばらまいてもらいたいのです。そんな果物には自然界の不思議がたくさんつまっていて、秘密がかくされています。カラフルなイラストをふんだんに使い果物の特徴について解説しています。



毎日新聞社記事づくりの現場

深光 富士男／文 佼成出版社
366 【小学校高学年～中学生以上】

毎日新聞社の記事作りの現場を訪問し、新聞記者の実情を取材して書かれています。デジタル新聞、小学生への出前授業、東北大震災のエピソードなど、小学生にも興味のもてる内容が書かれています。記事作りの一端がうかがえます。



やさしくわかる放射線

—実験・観察で放射線を理解しよう！

山村 紳一郎／著 床次 眞司／監修 429
誠文堂新光社 【小学校中学年～中学生以上】

放射能と放射線の違いを明らかにし、主に放射線について説明しています。エタノールとドライアイスを用いた「拡散霧箱」という装置で、家で放射線が観察できる科学実験なども紹介しています。

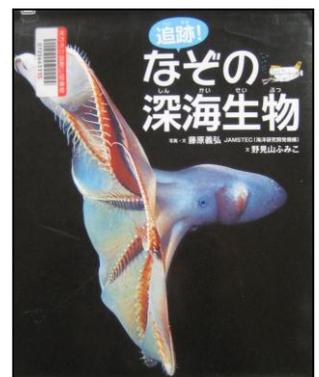


また、放射線は汚染被害の不安がある一方、マスク、絆創膏、医療機器の消毒や殺菌にも使われているなど、多方面から放射線の正しい知識を教えてください。

追跡！なぞの深海生物

藤原 義弘／写真・文 野見山 ふみこ／文
あかね書房 481 【小学校中学年～中学生以上】

水深200mよりも深い海は、太陽の光も届かず、水は冷たく、強烈な水圧がかかります。そこにすむ生物はどのように生きているのでしょうか。不思議な姿かたちの生物と、「しんかい6500」などの調査船についても紹介します。



クモの巣図鑑

— 巣を見れば、クモの種類がわかる！

新海 明／著 谷川 明男／写真 偕成社

485 【小学校高学年～中学生以上】

日本全国、身近に見られる約40種類のクモとその巣が紹介されています。クモによって様々な巣があり、形も違えばねらう虫の種類も取り方も違います。見開き1ページに1種類のクモの巣をはっている写真と、その特長や情報などが紹介されています。



世界クワガタムシ探検記

— ダーウィン・ビートルを求めて

山口 進／写真・文 岩崎書店

486 【小学校中学年～小学校高学年】

著者は30年以上にわたり、クワガタムシを実際に見て、その生態を知るため、アジア各地やオーストラリア、南アメリカへと旅を続けました。撮影された写真には、大自然の中で暮らすクワガタムシたちの生き生きとした姿が切り取られています。



シリーズ昔の農具 1

くわ・すき・田打車— たがやす、育てる、草を取る

こどもくらぶ／編 小川 直之／監修 614

農山漁村文化協会【小学校低学年～小学校高学年】

「シリーズ昔の農具」全3巻の第1巻。くわ、すき、たうちくるま、田打車など昔の農具を紹介しています。現在、機械化が進む稲作や農耕の歴史を知る上で必要な昔の農具や、その使用方法を写真で説明しています。第2巻は「かま・千歯・とらみ」、第3巻は「うす・きね・水車」です。



今森光彦の昆虫教室 とりかた・みつげかた

— Welcome to the world of insects!

今森 光彦／作 廣野 健一／絵 童心社

486 【小学校中学年～中学生以上】

昆虫採集の方法を著者自らがモデルとなり、こま割の写真で丁寧に説明しています。網をただ振り回しても捕まえることはできないのです。標本作りも手順の一つ一つが写真でわかりやすく説明されています。シリーズに「くらしとかいかた」があります。



この羽だれの羽？

おおたぐろ まり／作・絵 偕成社

488 【小学校高学年～中学生以上】

身近に落ちている鳥の羽、いったい何の鳥の羽なのでしょう？ 驚くべきことに、一見同じ鳥のもののように見える羽にも、それぞれ違った名称がありました。鳥の羽に秘められた驚くべき「仕組み」と「役割」について詳しく解説しています。美しいイラストが豊富に掲載されていて、眺めているだけでも楽しくなる本です。



うちは精肉店

本橋 成一／写真と文 農山漁村文化協会

648 【小学校低学年～中学生以上】

閉鎖される大阪府貝塚市にある小さな屠場「貝塚市立と畜場」の、最後の仕事の日取材したドキュメンタリーです。ここで働く北出さんは、子牛から育てた肉牛を、その屠場で屠畜後精肉して売る、江戸時代から7代続く精肉店も営んでいます。牛の解体作業を通して、生きるとは命をいただくことだと考えさせられます。

